

## 聖霊降臨節第13主日礼拝 説教「心を一つにして」要約

マタイによる福音書 第18章19～20節

日本キリスト教団茅ヶ崎堤伝道所

2024年8月11日

### ① 教会（伝道所）

教会（伝道所）が好きですか。私は大好きです。できることならこの教会（伝道所）が何年も、何十年も、何百年も続いてほしいと願っています。でも、教会の建物は時間が経つとあちこちに傷みが出てきます。壊れてしまうものもあるかもしれません。もしかすると大きな地震や火事などで教会（伝道所）の建物全部が使いなくなってしまうかもしれない。そうしたら、教会（伝道所）はなくなってしまうのでしょうか。決してそんなことはありません。イエス様はこうおっしゃっています。「二人または三人が私の名によって集まる所には、私もその中にいる」。イエス様のことを救い主だと信じている人が何人かいたら、それで大丈夫。イエス様のことを大事だと思っている人がいれば、場所がどこでも、どんな状況でも神様を、イエス様を礼拝することができます。たとえ目には見えなくてもイエス様はいつも私たちと一緒に。だから、私たちは安心して教会（伝道所）の建物の中でも外でもずっと礼拝ができるのですよね。

### ② 目に見える教会（伝道所）と目に見えない教会（伝道所）

通常、教会の礼拝は礼拝堂の中で行われます。日曜日の決まった時間、私たちは共に神様の前に集い、賛美し、礼拝を捧げます。礼拝と礼拝堂とは分かちがたく結びついていると思っています。ところで、礼拝は礼拝堂の中だけでなく、時に、教会墓地の前や公園、キャンプ場などで献げられることもあります。どうしてこのような礼拝が成立しうるのでしょうか。その答えの一つが今日の「二人または三人が私の名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」（20節）にあります。「イエス様は私の救い主」と信じる人たちが、二人または三人、一緒に集まる時、イエス様もその中におられるとおっしゃっています。もし、礼拝堂が大きな地震や火災などで使いなくなったとしても、大丈夫。目に見える教会（伝道所）だけではなく、同じ神様の方を向いている人が集まっている所には目に見えない教会があるということです。だから、私たちはいつでもどこでも礼拝を献げられるわけです。目に見える教会と目に見えない教会。そのどちらも大切な教会であるのです。

### ③ 心を一つにして（19節）

「心を一つにして」というのは、元々、「共に声を出す」というギリシャ語から来ています。イエス様はこの言葉を話す直前、「兄弟があなたに対して罪を犯したなら」（15節）と言葉を紡ぎ、「すべての事が、二人または三人の証人の口によって確定される」（16節）と結んでいます。だから、二人が異口同音に願い事を神様に告白すれば、それは願い事として聞かれるという事を意味します。但しこの願いは、一人による勝手気ままなものや、強制されて一つになったものであってはなりません。少なくとも二人または三人が同じように願う事でなければならず、また、神様の思いに沿ったものでなければ実現される事はないでしょう。そのためには、その二人または三人が「わたしの名」（イエスの名）によって集められている事が重要です。なぜなら、その人たちを実際に集めているのはイエス自身だからです。この時、集められている一人一人はイエスこそ救い主である事、「インマヌエル」（＝「神は我々と共におられる」）と呼ばれる方である事を思い起こすでしょう。イエス様はいつも私たちのお祈りや願いに耳を傾けて下さいます。そして、それを、叶えて下さいますよ。